



WHITE ACADMEY PTA 実践NEWS LETTER

2020年7月号

お子様の就職活動に役立つノウハウをホワイトアカデミーPTA会員限定でお届けします

目次

目次

7月の挨拶	1
6月の新卒市場動向とやるべきこと	7
今月の業界・企業分析	9
最近の就活への対応～オンライン面接編～	20
終わりに	26

7月の挨拶

7月の挨拶

今年の就活は荒れに荒れていますね。新型コロナウイルスの襲来に伴い、企業の選考がオンラインになることはもちろん、説明会が中止されたり、採用活動が中止になる会社が多く発生しました。JALやANAも例外ではありません。今年の就活生は苦渋を舐めた人も多かったと思います。今月のニュースレターはそんな状況下での今後の展望についてまずはみていきましょう。題して、アフターコロナの就活です。

新卒の求人数は減る

まず、当たり前ですが新卒の求人数は減ります。コロナウイルスの影響で旅行・ホテル・サービス業は業績が低下しており、リストラや解雇も行われている状況ですので、未経験の新卒を雇って育成する余裕がなくなっている企業は多いでしょう。加えて、元々この産業群は労働集約的なため、人を大量に採用していたところでした。そう考えていくと、アフターコロナ時代の有効求人倍率は大幅に低下するものと思われる。内定という少ない椅子をめぐるハードな競争が始まりそうですね。

研修の観点から新卒を採らない企業も

加えて、新卒をそもそも採用しない企業が増えることが予想されます。これは、入社後の集合型研修やOJTが三密回避のためにできなくなる可能性があるからです。新卒はやはり先輩のそばで実務を見ながら成長していくものです。しかし、コロナウイルスへの懸念や自粛意識によってOJTができない場合、新卒の採用に躊躇する企業も出てきておかしくないでしょう。専門性がなく、指示がないと動けない新卒は、テレワーク下でいきなりデスクワークをやらせても簡単にはできないと思われます。そのため、中途の採用を企業は行うでしょう。ただ一方、中途は減らしても新卒は一定数必ず採用する、と決めている会社もありますので、そこは各社の求人を見て判断していくのが良いでしょうね。なにせよ、新卒採用の求人は大幅に減るものと思われる。結局、新卒採用の求人が元のレベルに戻るのはワクチンや治療薬が出てきて三密が世間的な認識からなくなる頃ですので、おそらく2年後くらいであると予想します。

7月の挨拶

とはいえ、産業群によって復旧のスピードが速いところもありますので、そこに関しては早くから新卒採用が復活すると思われます。ここからはそれについて解説していきます。

復旧が早い企業群

エネルギー関連

電気・ガス・水道は今回のコロナの影響をほとんど受けていません。そのため、復旧が早いと思われます。事実、今年も東京電力などの企業は大量に新卒を採用しています。その人数、300人。すごいですね。そのため、今後も採用を一定数行うと考えられます。ただし、石油に関しては原油価格が下落している上に海運が影響を受けているため先行き不透明です。

日用品関連（医薬・食品）

食品や医薬品はコロナ下でも底堅い需要があります。そのため、そこまで大幅に売上が下落している気配はありません。むしろ会社によっては健康意識への高まりや感染症予防グッズへの需要増から、例年よりも売上が向上しているところさえあります。この産業についても新卒採用の影響をそこまで受けていないため、早期に復活すると思われます。

ヘルスケア関連

ヘルスケア＝医療・介護関連です。ここについては、クラスターが発生するような大きな病院は今後業績が低下していきますが、逆に遠隔診療は発達してくるでしょう。加えて、外に出られない以上、在宅介護の重要性は今後増してくると思われます。そのため、早期に回復し、採用も元に戻るでしょう。むしろ人手不足がこの産業の課題となりそうです。

IT関連

三密への配慮の影響から、多くの企業でテレワークが進んでいます。そのため、テレワークに関わるソフトやSaaSを提供している会社は業績がうなぎのぼりです。加えて、この産業は顧客の獲得と提供さえもWEBで行なっている場合もあるため、コロナウイルスでそこまで影響を受けていません。テレワークが元々浸透している会社が多い業界なので、今後はさらなる業績アップが見込めるでしょう。また、ロボットなどの人間を介さない形でのサービスの需要が増すことから、今後さらに伸びていくと思われます。新卒の採用人数は増える一方だと思います。

7月の挨拶

物流関連（陸運・海運・空運）

この産業の労働力不足が、全産業の業績回復のボトルネックとなっています。具体的には、海外の物流会社が営業を停止した結果、荷物が届かないなどの事態が発生しています。この産業は労働力を確保できるかどうかで売上が決定されますが、コロナの影響で求職者が集まらないため、現在は売上が減少しています。そのため、今後は急速に求人枠が増えていくでしょう。人々がオンラインで購入をすればするほど、この産業は儲かります。長期的に安定が見込めるでしょう。

コンサル関連

コロナウイルスの影響で困る会社が多いため案件は増えるでしょう。特に、公衆衛生に関する規格を作り、それを企業に取らせるようなタイプのコンサルティングは需要が爆上がりするはずですが、もともコンサルティング会社はテレワークなども進んでいますので、そこまで影響を受けていません。例年通り新卒を採用するでしょう。

復旧が遅い企業群

一方で、復旧に時間がかかると思われる産業群は以下の通りです。

インバウンド関連

旅行・ホテル・空港関連です。コロナウイルスへの不安が完全に払拭されるまではわざわざ外に出るのは身を危険に晒しているようなものです。人々の不安が払拭されるにはワクチンや副作用のない治療薬が必要なので、それらが開発されて実用化に至るまでは業績が元に戻らないでしょう。労働集約的で大量に人材を採用している産業なので、就活生にとっては痛手ですね。

飲食・サービス業関連

こちらも同様です。国や自治体が無用の外出を控えるように言っている以上、大手を振って飲食店には行きづらいでしょう。復旧には時間がかかるものと思われます。こちらも労働集約的な産業なので就活生にとっては痛手です。

自動車・機械・素材関連

部品が中国から届かないなどの影響から、製品を組み立てられない会社が激増しています。また、感染症対策のために工場をストップさせるなどの措置を取らざるを得なくなっています。そのた

7月の挨拶

め、世界的なサプライチェーンが元に戻るまでは影響が長く続きそうです。採用の回復にも時間がかかると思われます。

金融関連（銀行・保険・リース・証券）

現状、保有している資産である株式やREITが暴落したことから、株価が低下している金融機関が増えています。とはいえ、資金繰りに困っている民間企業が多いので、そこに資金を融通することに商機があるため3年もあれば持ち直すでしょう。しかし、銀行の新卒採用数自体は大幅に減っていくと思われます。もともとAIやRPAで人減らしを続けていた産業でしたが、それに加えて窓口に来る人が減ることで窓口業務をする人が余計に必要なくなるためです。なお、クレジットカード業界はキャッシュレスが推進されるために業績がどんどん向上していくと思われます。そのため採用数も増やすでしょう。ちなみに、生命保険会社は逆に人を大量に採用しています。明治安田生命も日本生命も同様です。世間が不安になるから保険が逆に売れるんでしょうかね…？

建設関連

ワクチンが開発されるまで、三密の極みと言える現場の環境が改善されない限りは業績が低迷するでしょう。ただ、この産業はそもそもが人手不足なので求人自体はあると思います。

人材関連

採用に関わる合同企業説明会や集合型研修は当面復活しないでしょう。加えて、クライアントが基本的に採用に予算を割かないためにこの産業は3~4年は売上低迷に苦しみそうです。新卒の採用も当然少なくなるでしょう。

広告関連

展示会によるプロモーションが今後下落していくことに加え、クライアントの財政が厳しくなって予算を割かなくなることから短期的には業績が低迷しますが、その後はデジタル広告を中心に業績が向上するため、その分野に関しては新卒を採用していくことでしょう。

復旧しない企業群

鉄道・バス関連

7月の挨拶

テレワークが進み、人々が郊外や自宅で仕事をするようになると、鉄道やバスを活用した通勤の必要性が徐々に薄れていきます。新卒採用数も徐々に減っていくでしょう。

都心の不動産

テレワークが進んで郊外へと人々がシフトするにつれて、都心の高価格な立地のオフィスビルやタワーマンションなどへの需要が薄れていくでしょう。逆に、郊外に大きな一軒家を立てるビジネスが流行るかもしれません。

就活のやり方自体が変わる

以上が各産業ごとに求人が増えるか減るかという内容でした。ここからは、そもそも就活がどうなるのかについて話したいと思います。

合同企業説明会がなくなる

三密の極みなので、ここ3年は倦厭されると思われます。学内の説明会も当面はなくなるでしょう。その代わりに、オンラインの合同企業説明会は生まれるかもしれません。

オンライン中心の形に移行

今回のコロナ禍での採用活動はオンラインで行われました。オンライン説明会、オンライン面接、オンライン座談会です。その形式で問題がないと判断する企業が増えてくるため、今後の選考もオンラインになっていくでしょう。

動画選考の拡大

そのため、自己PR動画を撮影して送るというプロセスが増えてくると思われます。これについては、綺麗な動画を撮るための工夫が必要になってくるため、念入りに対策を行っていく必要があります。これに対し、当スクールでは動画選考対策もしているので、困ったらずいお越してください。先日、その点について集英社の雑誌nonnoにて取材されましたので、一定数のノウハウは保有しております。

グループディスカッションの形骸化

7月の挨拶

三密を避けるため、グループディスカッションではない別の選考方式になると思います。例えば、AI面接などです。この辺りは今後どのように変わっていくのかについて注意していくべきだと思います。

インターンが変わる

学生を受け入れて職場見学や職場体験をしていくインターンは徐々に減り、今後はオンラインでの会社説明会やVRでの職場体験になる会社が増えてくるでしょう。

エントリー職種が変わる

加えて、応募のある職種自体も変更になる可能性があります。増加が顕著に現れるのがエリア総合職でしょう。できるだけ電車に乗らずに自宅の近くのオフィスに行くだけのエリア総合職は今後増加していくと思われます。加えて、テレワークにもなって在宅で〇〇をする、というだけの新しい職種も増えるかもしれません。既にデザイナーやプログラマーはこの形式ですが、鉄鋼会社の業務の一部がテレワークになるとしたら、、、何か新しいものが生まれそうな気がしませんか？もちろん、テレワークから会社回帰を選択する会社も出てきてはいるので一概には言えないのですが、何かしら新しい仕事が生まれてもおかしくない気がしています。ある種楽しみですね。

変化に対応できるものが生き残る

今は激動の時代です。今後、大きな変化が訪れることでこれまでになかったものが生まれたり、これまでにあったものがなくなったりします。それは仕事でもそうだし、価値観としてもそうです。常に時代の流れを追っていきながら変化に対応していくことで、一家でこの激動の時代をぜひ乗り切ってください。[就活についてのご不明点などがあれば、いつでもホワイトアカデミーの無料相談会にお越しください。](#)

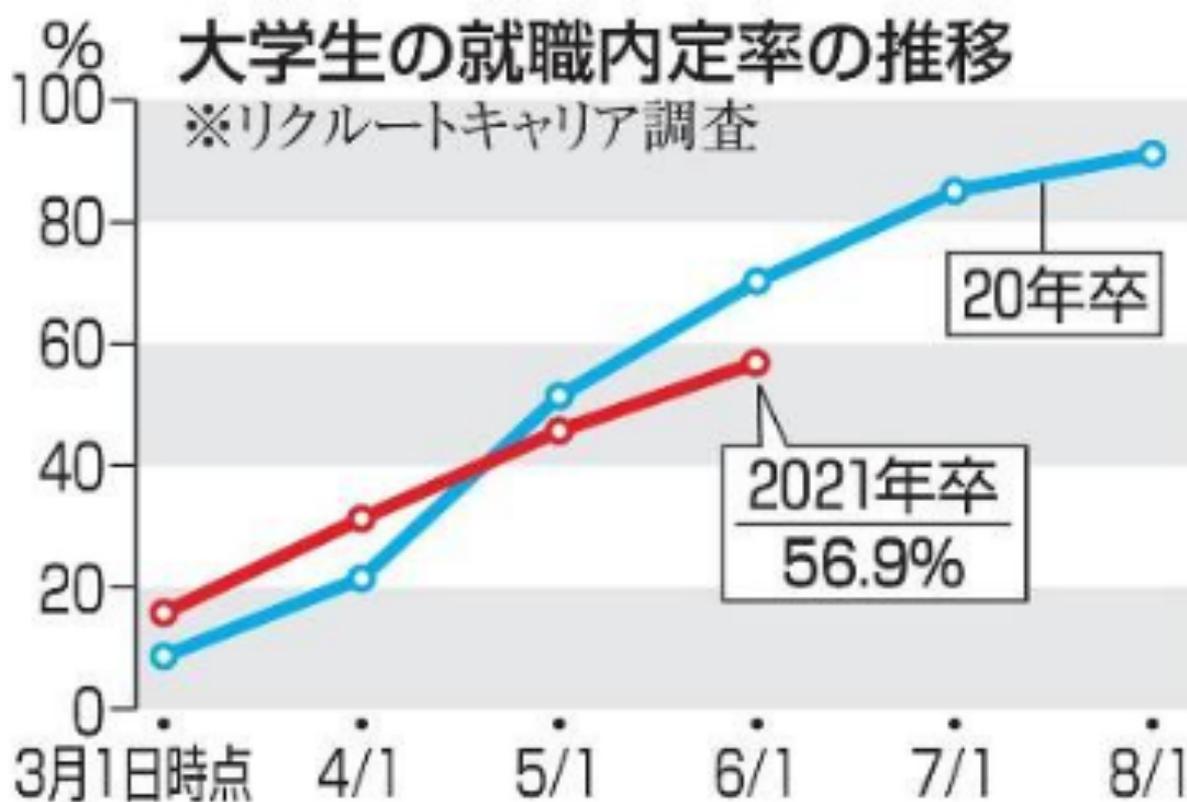
では、今月号もお楽しみください。

ホワイトアカデミー
校長 竹内健登

6月の新卒市場動向とやるべきこと

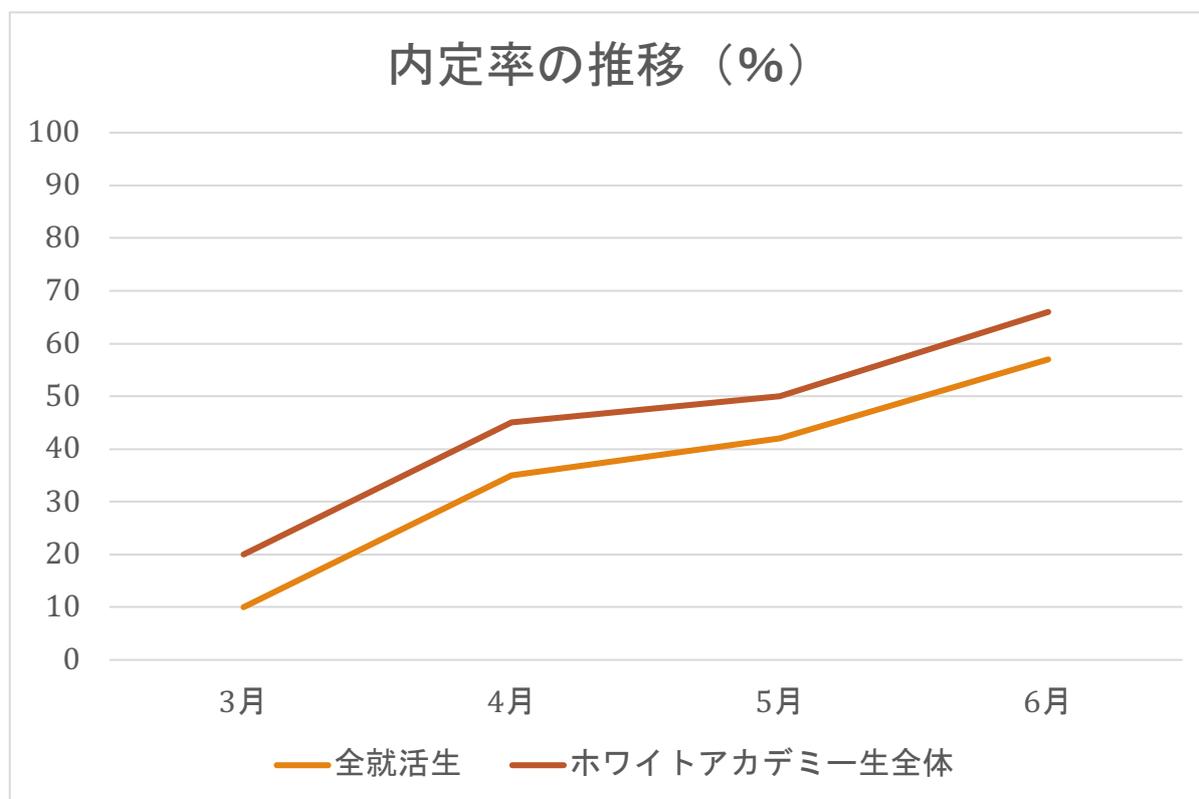
6月の新卒市場動向とやるべきこと

こんにちは、竹内です。ここでは、6月1日時点での就職活動状況から、全体感を追っていきたいと思います。



株式会社リクルートキャリアの調査によると、6/1時点での内定率は56.9%で、昨年よりも大幅に下がっています。コロナウイルスによる緊急事態宣言で、4月から動けなくなったためか、5月に昨年度の数字を抜かれてしまっていますね。今年はもともとオリンピックの開催に向けて早くから採用活動に踏み切っているため、3月や4月の時点では昨年よりも内定率が高かったわけですが、逆転現象が起きています。ちなみに、世間はこんな状態ですが、ホワイトアカデミーの内定率は以下の通りとなっています。

6月の新卒市場動向とやるべきこと



このニュースレターを書いている7/6時点でのホワイトアカデミーの内定率は約80%ですので、やはり就活指導というものは良い影響を及ぼすのだなと実感している次第です。

では、現在のこの状況を踏まえて、22卒の学生はどのようにすれば良いか？その答えは、「中堅企業の夏インターンをしっかりと受ける」ということです。今年は大手企業の夏インターンばかりを受けていると、倍率が例年よりも高いために撃沈する可能性が高いです。そもそも、夏インターンは業務の内容を知るために行うものですので、別の業界の大手企業に行かなくても、中堅企業でも十分その内容は理解できます。ですので、親御様はぜひ中堅企業をリストアップしてお子様にご紹介してあげてくださいね。詳しくはサロンの第二回の資料をご覧ください。

さて、今月の市況は以上です。お子さんは夏インターン先への応募で忙しいとは思いますが、7月後半になると急に面接が増えてきますので、この時期になんとか面接を意識したシミュレーションも行っておいてください。それでは。

竹内健登

今月の業界・企業分析

今月の業界・企業分析

このコーナーでは、毎月業界や企業の分析を行った結果を掲載します。今回ピックアップした業界はコンサルティング業界です。例年、夏インターンから早期選考があるため、早慶や東大の学生から人気がありますが、そのぶん選考倍率やレベルがメチャメチャに高いのが特徴的です。今回はその業界の分析をしていきたいと思います。

コンサルティング業界は今後どうなる？最新のニュースを徹底解説！

「コンサルティング業界の研究やりたいんだけど、どういう情報を集めればいいの？」

「そもそもコンサルティングってどんなビジネスモデルなんだろう？」

「コンサルティング業界って今後どうなるの？」

と思っている人がいるかもしれません。何を売っているのか、何の仕事をしているのかがわかりにくいということも原因となっているのかもしれません。今回はそんなあなたのために、コンサルティング業界について徹底的に解説します！この記事を読んで、コンサルティング業界の理解を深めて就活を有利に進めていきましょう。

それぞれのファーム

コンサルティング業界は得意としている分野や成り立ちによってファームが分類されています。

外資系

世界的に経営を広げているような国際的な大企業を相手にしている企業が多いのが特徴です。欧米に本社がある場合が多く、その支社がアジアや日本に進出してきているというイメージです。「マッキンゼー・アンド・カンパニー」「ポストンコンサルティンググループ」「ローランド・ベルガー」などが代表的です。

国内系

ここには日本国内の金融機関が設立したシンクタンク系の企業や、戦略を立てるところから実行までをトータルで管理する総合系、人事制度などを中心に行う組織人事系などがあります。「三菱総合研究所」「野村総合研究所」「NTTデータ経営研究所」があります。

IT系

ITシステムを導入することで業務を改善することを得意としているのがIT系のファームです。業務プロセス、オペレーションなどを細かく改善していきます。そのテーマは経営戦略、M&A、会計などか

今月の業界・企業分析

なり幅広いのも特徴的です。「アクセンチュア」「IBM」「PwC」「デロイトトーマツコンサルティング」などが代表的です。

業界の仕組み

そもそも「コンサルティング」というのは「相談する」という意味からできた言葉です。つまり本質的には会社、企業の相談にのり、企業からコンサルティング料を支払われるのが基本になります。その仕事は多岐にわたりますが、大きく分類すると二種類となります。

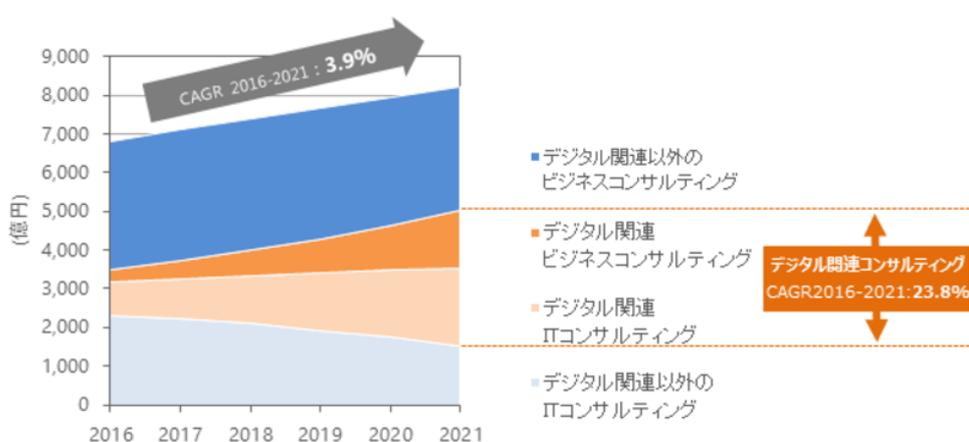
まずは「経営コンサルティング」です。コンサルティングの中でもっともメインとなる業務で、経営戦略や人事、会計など企業の運営全般の問題や課題について解決策や打開策を提案していきま。中には提案するだけでなく実行するにあたって様々なサポートを行う場合もあります。継続して契約している場合などは決まった額が企業から支払われることとなります。

もう一つは「ITコンサルティング」です。近年IT関連の進化はすさまじいものがあり、企業の運営にも大きく関わりを見せています。ITに特化してコンサルティングを行うことで経営の効率化や情報の収集や整理を行ったりします。こちらも契約している企業からコンサルティング料が支払われる場合と、特定の案件に関して支払われる場合があります。どちらの場合もコンサルティング会社と雇用する企業との信頼関係が大きくものを言うのは間違いありません。

業界の現状や動向

コンサルティング業界は安定してその市場規模を拡大させている業界でもあります。

国内コンサルティングサービス市場 支出額予測：2016年～2021年



Notes:

- ・2016年は実績値、2017年～2021年は予測値
- ・コンサルティングサービス市場=ビジネスコンサルティング市場+ITコンサルティング市場
- ・ITコンサルティングでは、第3のプラットフォームの導入/運用を「主要な目的」とする案件をデジタル関連コンサルティングの対象とした。

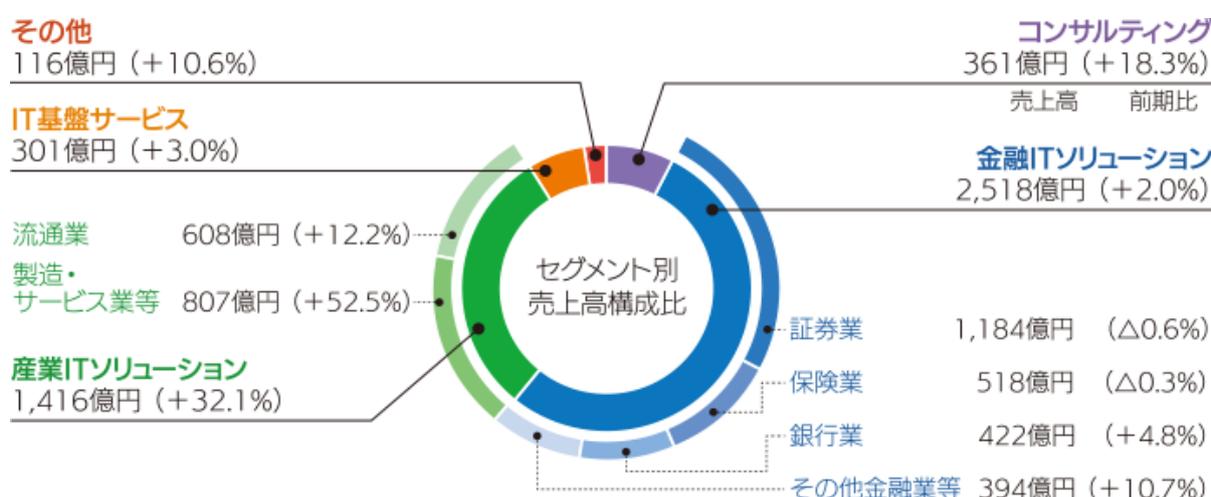
Source: IDC Japan, 5/2017

今月の業界・企業分析

IDC Japan株式会社プレスリリースより引用(<https://consulnews.jp/2017/05/25/idcconsultingmarketreport2016/>)

このグラフから見てわかるように確実に右肩上がりの市場規模であり、しかも将来的にもますます拡大させていくことが予測されています。2016年度も前年比約5%増の6792億円となっています。まだまだ巨大な市場とは言えませんが、それだけに将来性が期待できると言えます。

コンサルティング業界の売上構成



野村総合研究所公式HP (<https://www.nri.com/jp/ir/individual/highlight/segments.html>)

こちらは野村総合研究所の売り上げ構成データです。コンサルティング会社によってももちろん特徴はありますが、ITが伸びしろであることから、多くの会社でこのような構成になっていることがあります。まず基本的な「コンサルティング」、そして近年大幅に増加している「IT関連」、「その他」というような売上構成となっています。

売上高ランキング（国内）

- 1位: エフティグループ 372億円
- 2位: トライステージ 371億円
- 3位: 三菱総合研究所 350億円
- 4位: リンクアンドモチベーション 319億円

今月の業界・企業分析

- 5位:野村総合研究所 283億円
- 6位:ベネフィット・ワン 260億円
- 7位:プロネクサス 209億円
- 8位:フルスピード 150億円
- 9位:船井総研HD 147億円
- 10位:日本M&Aセンター 147億円

業界動向サーチ(<https://gyokai-search.com/4-keiei-uriage.html>)

1位のエフティグループはIT関連のコンサルティングに特に強く、その業績を高いレベルで安定させることに成功しています。

2位のトライステージは経営分野のダイレクトマーケティングの手広さと手堅さで評判の会社です。クライアントとなる企業からの信頼が厚いことでも有名です。

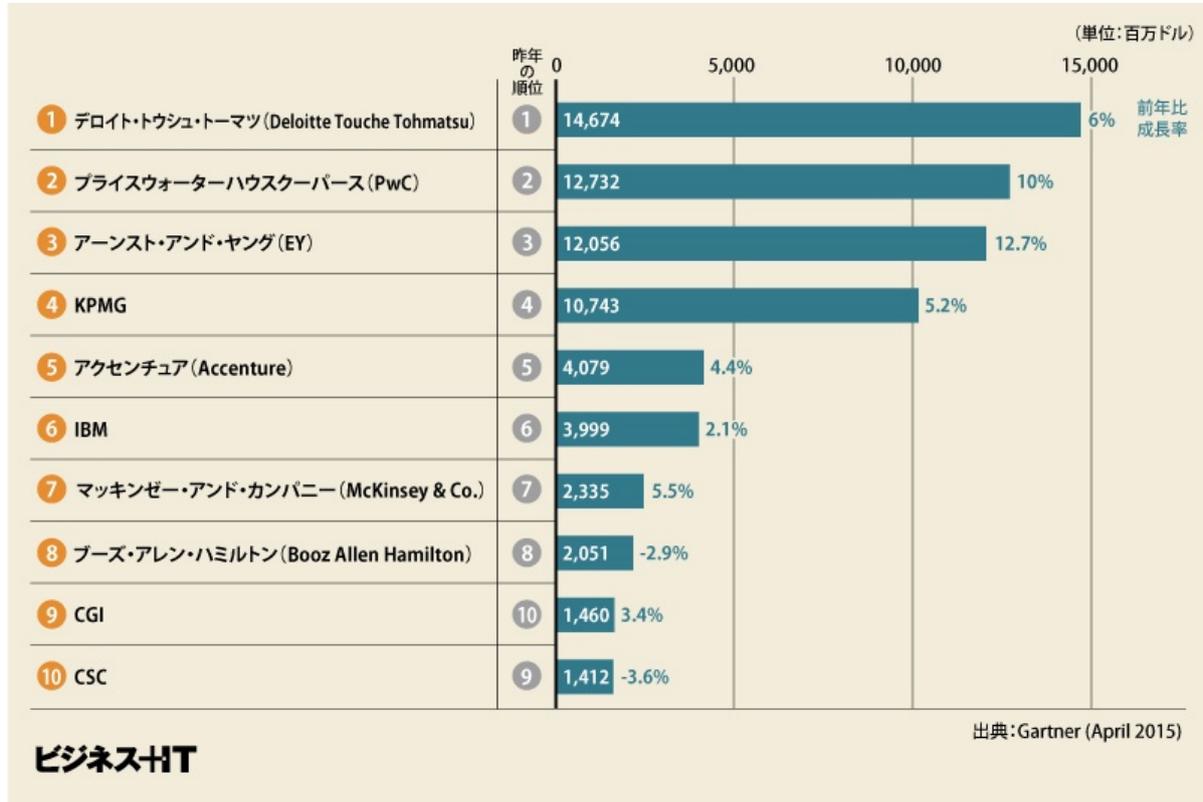
3位の三菱総合研究所は会社の名前の通りに総合的にコンサルティングを行っています。シンクタンク系とIT関連で安定して売り上げがあります。

4位はリンクアンドモチベーションは経営戦略コンサルティングに特に強いと言われている会社です。

5位の野村総合研究所は野村総合研究所と野村コンピュータシステム株式会社が合併されて設立されました。足りなかったIT部門が大幅に強化されたことで非常にバランスよくコンサルティングができるようになっています。

今月の業界・企業分析

売上高ランキング（外資）



ビジネス+IT (<https://www.sbbit.jp/article/cont1/30055>)

こちらは海外のコンサルティング会社の売り上げ上位企業です。日本に進出してきている企業も多く、その影響力は高いものがあります。

業界の課題

コンサルティング業界は最近拡大傾向にあります。それだけに課題も多く出てきています。まずもとど欧米と比べると日本にはコンサルティングという風土は弱く、利用率は低いものです。日本には企業は数多く存在する割にそれほどコンサルティング会社が使われていないという状況なので。そのため市場規模はますます大きくなってきているのですが、そうすると急激な市場規模に正しくファームが対応できないということが発生してきます。

現在コンサルティングファームは急激のその数を増やしています。新しく業界に参入してきた会社は実績がないために顧客を開拓していかなければなりません。そうすると大企業だけをターゲットにしているとはとても商売にならず、中小企業や新興企業も取引先として選ぶこととなります。そうすると大企業よりも報酬が低い、コンサルティング会社の仕事内容を理解していない、などの問題も起

今月の業界・企業分析

こってきます。このあたりをこれからどうさばいていくかということが大きな課題となっています。これはここ10年で約2倍の市場規模となっていることからさらに問題視されていくでしょう。

また、「海外との付き合い方」も重要になります。近年は国内だけで仕事をすべて管理しているのではなく、海外企業との関わりをもっている企業が増えてきています。そうすると海外の企業とも付き合い合っていかなければなりません。海外の企業に関する知識、経営や市場についても情報がなければ仕事ができなくなります。さらに海外の企業を顧客とすることも考えられます。そうすると国際的な視野を持って仕事をするに加え、海外でも仕事ができる人材を揃えていくことが求められます。こういった問題をどう解決していくかがコンサルティング業界の課題と言えるでしょう。

外資系BIG4について

コンサルティング業界で「BIG4」と言えば、総合系の大手コンサルティング会社のことを意味します。「PwC」「デロイト」「KPMG」「EY」の4つで海外のコンサルティング会社売り上げ上位4つの会社でもあります。

PwCコンサルティング

売り上げ2位に位置しているのがPwCコンサルティングです。こちらはIT系、最新テクノロジー系に強みがあるだけでなく「人材」を大事にするという会社方針もあって人気の高い会社です。日本では「あらた有限責任監査法人」がフォローについています。

デロイトトーマツコンサルティング

現在売り上げトップのファームで、私の古巣です。デジタル分野、IT分野にも強みがありながら売り上げの多くを純粋なコンサルティング分野であげているという強力な安定性があります。日本では「有限責任監査法人トーマツ」がフォローについています。

PMGコンサルティング

こちらは2014年の夏に設立されたばかりの非常に新しい会社です。実績がないながらもそれぞれの分野のエキスパートたちを中途採用で採用し、その営業力と行動力で結果を出してきました。今後は社内の体制を整え、新卒採用を増やして社内教育を増加させていく方針を打ち出しています。日本では「あずさ監査法人」がフォローについています。

EYアドバイザリー & コンサルティング

2017年に新日本有限責任監査法人、EYアドバイザリー株式会社、EYフィナンシャル・サービス・アドバイザリー株式会社が合併する形で設立された会社です。新会社としての実績は弱いものの、勢いは非常に強い会社でもあります。日本では「EY新日本有限責任監査法人」がフォローをしています。

今月の業界・企業分析

MBB (BIG3) とは？

コンサルティング業界でBIG3と言えば特に戦略コンサルティングファームの中でトップ3と言われる「マッキンゼー」「ペイン」「BCG」のことを指します。

マッキンゼー

国際的な企業の総収入ランキングの上位100社のうち約半数とクライアント契約をしており、日本国内でもトップ30社と契約をしています。とにかく人材に対する意識が強く、英語研修やキャリア育成プログラムの充実などは目を見張るものがあります。社員の入れ替わりが激しいイメージがある外資系ですが、実際には決してそういったことはなく、退職する社員に関してもほとんどが「クビ」ではなく「次のステージ」と捉えられ、ビジネスの上で良い関係を続けるということも珍しくありません。

ペイン&カンパニー

社員への待遇、福利厚生が良いことでも有名なペインには社員が希望する社外の組織に最大半年間派遣されるというエクスターンシップ制度が整えられています。これは本人が望むキャリア育成と成長のために行われるもので、社員の能力向上を会社がバックアップしているのがはっきりとわかります。

BCG (ポストンコンサルティンググループ)

こちら社内での社員教育制度がしっかりと整っています。一人立ちできるように鍛えられるコンサルタント従弟制があり、一人前になるように教育が行われます。このBIG3では共通して人材を成長させることができる環境が整っているというのが特徴的だと言えるでしょう。

志望動機について

まずコンサルタントの仕事をどれだけはっきりと理解しているかということが重要です。クライアントで問題となっている案件をしっかりと整理して情報を加え、課題を解消できるように持っていきます。また、現在の経営状態をさらに上向けるために必要なことを提案していくことをしなければいけません。つまりこの業界を志望するには「クライアント最優先」の姿勢が重要となるのです。自分が目立ちたい、成果を自分のものにしたいというのではなく、クライアントが求めるニーズに答えるのがコンサルタントの仕事なのです。自分がサポート役、裏方として向いているかどうか重要と言えるでしょう。そのうえで様々なコンサルティング分野の中から自分が仕事をしたい分野を選んでいくことになります。できるだけ具体的にこの分野なら自分の力を発揮できるという分野を志望動機として書くことが大切です。では実際の志望動機の例文を見てください。

「私が秋季インターンシップを志望する理由は、私の強みである課題分析能力が、コンサルティングの仕事において活かせると思ったからです。その中でも、戦略コンサルティングを志望するのは経営層が持つ課題を解決したいからです。私の父は病院の経営を行っていますが、いつも朝早くに

今月の業界・企業分析

出勤し、夜遅くに帰ってきます。この原因は、サービス力で大きな利益を狙える私費治療ではなく、保健適用範囲内の治療で薄利多売の戦略をとっていることが原因であると考えています。このように、戦略の不在やミスは経営者の私生活だけでなく、会社全体にも大きな影響を及ぼすことから、戦略コンサルタントになることで父のような経営者に対し、より良い戦略を提案することで貢献したいと考えています。貴社は父のような日系の企業に対して高い価値創造をしているため、私のやりたいことができると考え、本インターンシップにエントリーさせていただきました。」

文面から見てわかる通り、顧客志向が伝わってきますよね。コンサルティング業界を志望する際にはこの本質を忘れてはいけません。

ホワイト企業はあるのか？

コンサルティング業界には多くの会社があり、さらに増加傾向にあります。ただ、はっきり言ってこの業界にホワイトな企業はないと思った方が良いでしょう。なぜなら、残業時間がものすごく多いからです。その代わりに、多額の給料とスキルが得られるのが特徴だと思います。コンサル会社に勤めている人は基本的にアグレッシブな人が多く、その後のキャリアも自分で切り開いていく人が多いです。もしあなたのお子さんがそうであれば、コンサルを進めるのも良いと思います。ここでは色々な項目から総合的に高得点をとっている優良企業を3つ紹介していきたいと思います。

優良企業①マッキンゼー

新卒1年目～3年目までの平均年収が約900万円、30歳でシニアマネージャーになるとベース給1500万円+インセンティブ給というかなり高額な年収が魅力的です。「仕事のやりがい」「給与面での待遇」でトップとなっており、しっかりと報酬として返ってくるところが評価されています。新卒内定者の約6割が東京大学となっています。平均した残業時間は100時間程度です。厚生労働省の過労死ラインを超えているので、体力と知力がある人以外はオススメしない会社です。

ホワイト企業②ボストンコンサルティング

二つ目はボストンコンサルティンググループ(BCG)です。こちらは最速で2年も待たずに昇進によってベース年給が1000万円を超えることがあります。それにインセンティブ給を加えると1500万円前後になることもあり、やはり給与面での厚遇が高評価のポイントとなっています。「評価のされ方」がポイントが高くなっているのもその表れと言えるでしょう。新卒内定者の約8割が東京大学と京都大学で占めています。こちらも残業時間が多いので、体力と知力がある人以外にはオススメしません。

ホワイト企業③野村総合研究所

シンクタンク系のコンサルティング会社として大手金融機関、証券会社などをクライアントに持ち、官公庁向けのリサーチ業務や総合系コンサルティングにIT関連などにかつ幅広い業務内容が人気となっています。色々仕事したい、自分で仕事を選びたいという人の中でポイントが高くなっ

今月の業界・企業分析

ているのが特徴と言えます。先の2つに比べて年収は落ちますが、残業時間が47時間と、健康的な水準に収まっていることからこの会社は人気があります。

業界の今後や将来性

30年ほど前までは日本ではほとんどみられることがなかったコンサルティング会社です。社内で起こった問題は社内で解決するというのが基本的な考え方で、経営方針や人事に関して社外の人の意見を求めるということはほとんどありませんでした。しかしここ20～30年の間に急成長を見せ、学生たちの希望する業種にもコンサルティング業界が上位に来るようになってきています。年々その市場規模は大きくなっているためにまだまだ成長の余地はあると考えられます。特に今後はクライアントの海外進出に関しての業務が増えるという予測がでています。海外の企業を買収、海外の企業と合併、海外への拠点構築、海外の人向けの商品の開発、海外でのマーケティング戦略などは避けては通れないでしょう。そういったことからこれからは海外に目を向け、語学や海外に関しての知識、専門性などが求められていくと考えられています。

業界の話題・ニュース

コンサルティング業界を志望するにあたって、最近コンサルティング業界で起きているニュースを知っておくというのは当然とも言えます。ここではコンサルティング業界に関するニュースを3つ紹介していきたいと思います。ちょっと古いニュースではありますが、コンサルの仕事のイメージがつかめるでしょう。

ニュース① アクセンチュア、合併会社を関西電力と設立

平成30年8月1日、関西電力株式会社とアクセンチュア株式会社はデータアナリティクスや人工知能(AI)、IoTなどのデジタル技術を活用し、既存事業の変革支援と新規事業の創出などを目的とした合併会社「株式会社K4 Digital(ケイフォー デジタル)」を設立しました。K4 Digitalは資本金9000万円。関西電力が80%、アクセンチュアが20%をそれぞれ出資しており、従業員数は42名で9月1日からサービスの提供を開始しています。関西電力はこれまでもデジタル技術を積極的に活用し、スマートメーターから取得した電気使用量に基づく「太陽光発電出力の予測精度向上」や「配電設備の最適化」などの取組みを推進してきました。ここで必要となるデータ整理、データ分析にアクセンチュアが協力をすることですらなる効率化を求めたものだとされています。

ニュース② デロイト、世界展開を推進

デロイト トーマツ グループは平成30年7月13日、アジアパシフィック地域のデロイトの他のメンバーファームと共に、新たにDeloitte Asia Pacificを設立すると発表しました。これは、日本(デロイト トーマツ)のほか、中国、オーストラリア、ニュージーランド、東南アジア(インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ブルネイ、グアムを包含)の5つのメンバーファームが参画して、平成30年9月1日に設立されたものです。ここではアジアパシフィック地域での連携を強化するとともに、

今月の業界・企業分析

- ・クライアントへのサービス提供体制の拡充
 - ・監査品質の一層の向上と均質化
 - ・人材の採用・育成の加速
- が目的とされています。

ニュース③ アビーム、セキュリティ分野に参入

アビームコンサルティング株式会社は平成30年7月6日、企業におけるサイバーセキュリティ対策の支援をさらに強化するため、「ABeam Security」のソリューション提供を開始すると発表しました。こちらのソリューションは、サイバーセキュリティに関連する戦略的なコンサルティングサービス、ソリューション提供、さらにはセキュリティインシデントへの対応や復旧支援など企業のセキュリティ強化・対策を統合的に支援するものとして期待されています。「ABeam Security」は、現状課題の診断からセキュリティ戦略構築の支援、対策の実施、運用や復旧支援といった一連のソリューションやセキュリティ人材の育成といったサービスに加え、想定外のインシデントを検知し事象を判断するだけでなく具体的な対策方法を導き出すためのフレームワークも提供しています。アビームコンサルティング社はサイバーセキュリティへの対策を、

「”つながる”時代に企業活動を行うために必要な経営基盤として捉え、専門知識や経験、実績を持つパートナー企業とのコラボレーションを通じて質の高いサービス、ソリューションを提供することで、企業の取り組みを総合的に支援していく」として発表しています。

オススメの書籍3選

コンサルティングという仕事はまだ日本で展開されはじめて20～30年ほどの歴史しかありません。しかしそれだけに将来性は非常に高く、これからの事業や市場規模の拡大が大いに期待されている業界でもあります。高い知識と専門性を持ってクライアントのニーズに応えるということを実践していきたい人にとってはこれ以上ないほど魅力的な業界と言えるでしょう。最後にオススメの書籍を3冊ご紹介するので、是非読んでみてください。

年間報酬3000万円超えが10年続くコンサルタントの教科書

(書影からAmazonに飛べます)



<ポイント>

コンサル業界を目指すなら是非身につけておきたいコミュニケーションスキルだけでなく、コンサルティング商品を売ったり業務を実行したりしていく上で重要な質問スキルについてもよくまとめられています。

今月の業界・企業分析

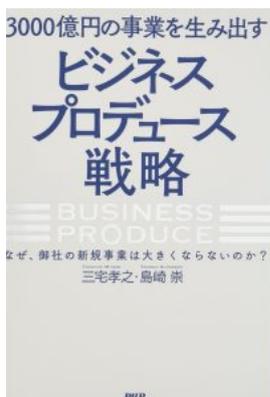
年間報酬3000万円越えが10年続くコンサルタントの対話術 (書影からAmazonに飛べます)



<ポイント>

コンサルタントほどコミュニケーションが求められる仕事はありません。相手との交渉・業務改革・目標達成・契約更新……全てにおいて対話を中心としたコミュニケーションが重要視されますが、この本では、どういったコミュニケーションを取れば相手に気持ちよく動いてもらい、お金を支払ってもらえるかについて網羅的にまとめられています。具体的なフレーズもたくさん書いてあるので、社会人と話すことに慣れていない場合はこの書籍のフレーズを暗唱できるまで繰り返すことでできるビジネスパーソンになれるでしょう。

3000億円の事業を生み出すビジネスプロデュース戦略 (書影からAmazonに飛べます)



<ポイント>

大企業同士でビジネスマッチングをし、3000億円クラスの新事業を生み出すための戦略が全て書かれています。この書籍で言われているフックと回収エンジンはまさにフロントエンドとバックエンドの考え方そのものなので、将来、社会的インパクトの大きい仕事をしたいなら是非読むべきです。

コンサル会社についてのまとめ

さて、コンサル会社について今回は取り上げてきました。コンサル会社の選考は夏のインターンでの態度や能力を見られて、秋口に本選考が行われます。この会社に限っては夏が主戦場ですので、受ける方は抜かりない準備をして臨んでみてください。

竹内健登

最近の就活への対応～オンライン面接編～

最近の就活への対応～オンライン面接編～

ここでは最近よく行われるオンライン面接についての対策を解説していきたいと思います。

WEB面接（オンライン面接）の概要と対策をプロが解説！場所や服装は？



コロナウイルスに拡大に伴い、最近導入が増えてきているWEB面接。就職活動をする方の中にはその対応方法について困っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？事実、私が経営する就活スクールでも多くの生徒さんからWEB面接の対策について回答を求められました。そこで今回は、就活指導のプロである私がWEB面接の対策方法について、その流れや注意点・服装・場所などのよくある質問に回答していきたいと思います。

そもそもWEB面接とは？

WEB面接とは、通常行われている面接をZOOMやスカイプなどのビデオコミュニケーションで行うものです。そのため、地方の求職者にとってはわざわざ会社に出向かなくてもよいというメリットがあり

最近の就活への対応～オンライン面接編～

ます。ただ一方で、顔を合わせてコミュニケーションをするわけではないので、肌感や雰囲気かわかりづらく、入社後のミスマッチにつながる可能性が上がるというデメリットもあります。

WEB面接の流れ

流れは基本的に対面の面接と同様です。対面の場合は入室→挨拶・着席→質疑応答→退席・退室という流れになりますが、WEB面接も同様に、ログイン→時間になると面接官がミーティングに参加→挨拶→質疑応答→ミーティングから退出となります。入室時間についても基本的に対面の面接と同様です。対面の面接だと10分前には会社に着いていることが望ましいですが、WEB面接もそれと同様に10分前にはログインして待っていることが望ましいと言えるでしょう。この辺りは企業から指示がありますから、それに従ってください。

WEB面接ならではの注意点

普段の面接とWEB面接で違うのは場所と通信環境の2点です。場所は自宅になることが多いため、電話や家族の話し声などの余計な雑音が入らないように注意しましょう。加えて、通信環境が途中で途切れると互いにイライラしてしてしまうため、有線などを活用して通信環境が途切れないように注意すべきであると言えます。

望ましい環境づくりとは？

ここからは、望ましいWEB面接の環境づくりについてお伝えしていきます。

場所はどこが良い？

結論、**自宅が良い**でしょう。ただし、以下の2つの条件に注意してください。

1つめは、背景が真っ白になっていて何も映っていないことです。よく、自分の部屋で面接をしている人を見かけますが、背景にベッドが入っていたり洗濯物が干されていたり、はたまた部屋が散らかっていたりして印象が良くないことが多いです。こうなってしまうと悪い印象を持たれることはあっても良い印象を持たれることはないので、背景には十分に注意しましょう。もし背景がどうしても白くならない場合は布や模造紙などを垂らして白くすると良いでしょう。

2つ目は余計なノイズが入ってこないことです。そのため、家族に対しては事前に面接時間を伝えておくと同時に部屋への立ち入り禁止や会話や足音への注意などをおくと良いでしょう。

最近の就活への対応～オンライン面接編～

机や椅子のオススメはある？

目線の高さにカメラが来るのであれば学習机でもテーブルでも大丈夫です。目線と画面がきちんと水平になるように事前にチェックしてください。また、デスクの上にはメモや筆記具を用意し、選考に関する連絡を**メモするそぶりをした方が良い**でしょう。相手はあなたがきちんと話を聞いているかをあなたが思っているよりも気にしているのでメモはしっかり取りましょう。

PCとスマホのどちらが良いのか？

断然、PCをお勧めします。スマートフォンの場合、画面が揺れたり退室時に自分の手でボタンを押したりしないといけません、その動作が相手からすると不快になる可能性があります。どうしてもスマートフォンしかない場合には高さが調節できるスマホスタンドで対応すると良いでしょう。**どちらの機器を使うにせよ、事前に本番環境でリハーサルをしてカメラ、マイク、スピーカーがトラブルなくサクサク動くかチェック**しましょう。加えて、本番時には充電が十分にされているかを確認しましょう。

オススメの照明はありますか？

自身の顔を綺麗に見せるために照明をPCの後ろからかざす方がいらっしゃいます。この時に、リングライトか卓上のデスクライトのどちらが良いかという質問を受けますが、PCの撮影をする場合には卓上のデスクライトで十分でしょう。照明の色は柔らかな印象となる自然光がオススメです。もし昼間に面接を行うのであれば、**逆光に注意**しながら日当たりの良い箇所にカメラを設置すると良いでしょう。一方、スマホで撮影する場合にはスマホの後ろにリングライトやライト付きのミラーを置くことで瞳にキャッチライトが映り快活な印象になります。ライト付きミラーは自然に表情を確認できるのでオススメです。加えて、顔が暗い場合は白い画用紙等をレフ板代わりにして顔に光を反射させると明るく見えます。これらは天候や時間帯によって映りが異なるため、**撮影前に写真を撮って映りを確認しながら微調整**すると良いでしょう。

イヤフォン・マイクはした方が良い？

イヤフォンは周囲の環境や端末性能のために音声聞き取りにくい場合のみ使用すると良いでしょう。小型で有線のマイク付きイヤフォンがオススメです。一方、マイクは必須ではありませんが雑音が入りやすかったり声が通りづらかったりする場合は使用すると良いでしょう。小型のマイク付きイヤフォンがオススメです。撮影前にテスト動画を撮影して雑音がないかや、声をはっきり聞こえるか確

最近の就活への対応～オンライン面接編～

認しておく方が良いと思います。なお、イヤフォン・マイクともにしている方が**印象が悪い**ということは**基本的にありません**。

最低限必要なPCのスペックは？

CPUはWEB通話においては重要度は低いです。メモリが大切ですが、そこはタスクマネージャーで要らないものを止めれば大丈夫でしょう。最近のPCのスペックの話なら第8世代Celeronで十分です。

有線LANとwi-fi、安定性はどのくらい違うもの？ 有線ならタイムラグはない？

利用環境で全く違うので比較できません。有線ならほとんどタイムラグはないです。ただプロバイダーやケーブルの種類、PCによって速度は違うので何とも言えません。結論としては、事前に友達や家族に協力してもらって**環境確認**をすれば問題ないです。当スクールでは、そのチェックは徹底させています。

スマホのテザリングなど予備の通信手段は持っておくべき？

あるに越したことはないです。

WEB面接のコツやTIPSについて紹介

カンペを用意するのはアリなのか？

結論、アリですが、2つのリスクを覚えておいてください。1つ目は、カンペをそのまま読み上げると面接官とのキャッチボールがおざなりになり減点されることがあるということです。2つ目は、カンペを見ている時の目線がカメラとずれると相手に勘ぐられるということです。この辺りのリスクを考えると、やはり回答を事前にある程度用意しつつも面接官としっかりとキャッチボールを行うという本来の王道の形が良いということになります。

スーツなどの服装はどうすればよいか？

基本、私服ではなく**スーツを着用**しましょう。私服を着て怒られることはあるかもしれませんが、スーツを着て怒られることはありません。なお、WEB面接の場合は対面よりも視覚情報が限られる分、**少しの乱れが気になる場合があります**。服装や髪型、お化粧などは乱れていないか十分に注意してください。この辺りのことは動画撮影前に同じ画角で写真を撮って客観的に見て乱れが

最近の就活への対応～オンライン面接編～

ないかチェックしておくといいです。首元あたりの髪や襟元が左右対称になるように注意してください。

万が一、接続が切れてしまったらどうする？

その際は**人事に電話**してください。そのまま電話面談になることもよくあります。フリーズしたときも同様です。この場合、電話対応の上手さが相手からの印象につながります。

理想のアングルはある？

自分の顔が垂直になりカメラが目線の高さと同じ程度になることが重要です。カメラを下からあおると鼻の穴が強調されるのであまり良い印象にはなりません。

目線はどこ？

カメラと同じ位置に合わせましょう。PCにフロントカメラがない場合は取り付け式のものを活用してください。スマホはカメラの位置的に目線が横に行くので、やはり推奨できません。

美顔加工してもいいの？

問題ないです。

背景加工してもいいの？

背景加工はしない方が無難です。加工しないと印象が悪いような場所でやらない方がいいですが、どうしても場所が用意できないなら利用も可です。

話し方や仕草で気をつけるポイントは？

対面の時よりは少し大きな声でゆっくり話してください。聞き取りづらくなっている場合があります。

スマートな退出の方法（目線やタイミングなど）

「ありがとうございました」（お辞儀）→カーソルを退出ボタンへ→「失礼いたします。」→お辞儀→退出がよいでしょう。

最近の就活への対応～オンライン面接編～

まとめ

基本的には通常の面接と評価ポイントは変わりません。ただし、WEB面接は行われる空間が違うので、しっかりと事前確認を行って通常と同様の面接ができるかをチェックすると良いでしょう。最近ではAI面接を導入する企業も増えているので、AI面接の対策方法についてまとめた記事もぜひ読んで対策されることをオススメします。

竹内健登

終わりに

さて、今回のニュースレターは先月行ったサロンの内容を再掲して終わろうと思います。復習に使ってください。我々はこの予測に基づいて今後ビジネスをしていきますし、指導もこの方向で行なっていく予定です。ぜひこの内容を叩き込んで、アフターコロナの世界をイメージしていただくと良いと思います。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

コロナ禍でビジネス環境に起きた2つの変化

1. グローバル企業や三密産業で採用数が大幅に減る
旅行・ホテル・飲食店だけでなく、グローバルサプライチェーンが止まったことで製造業にも影響あり。
2. テレワーク・5Gを含めたデジタルシフトが10年進む
働き方改革、リモートワーク、5Gがこれまで以上に進む。キャッシュレス、ECでの購買が増える。

1については短期的な動きですが、2は不可逆的なものです。今後、よりデジタルシフトが進んでいくことでしょう。そして、そのことが雇用を奪っていくでしょう。以前産業革命時には重機やロボットが出てきて、多くの工場労働者の雇用を奪いました。同様のことが今後もずっと続くでしょう。先々の

終わりに

ことを考えると、やはり自分でビジネスを作る能力を持つておくことがいちばんの安全となりそうです。

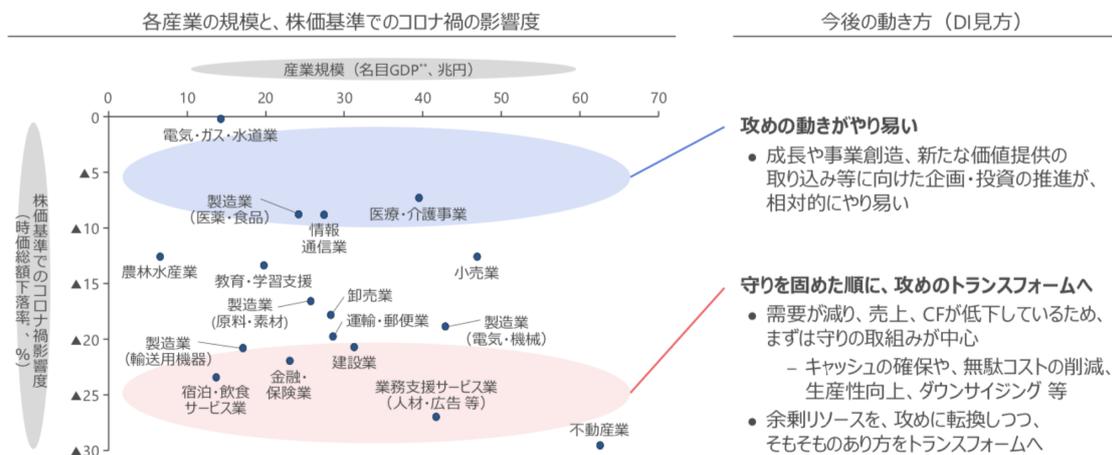
そのことに興味がある方は、ホワイトアカデミーのプレジデントコースをご活用ください。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

業績から考える採用数の変化

各業界への影響度合い

株価を基にすれば、影響の少ない業界は、“**インフラ、ヘルスケア、情報通信**”。逆に、“**宿泊・飲食、金融、建設、業務系サービス、不動産**”は影響が大きい（見込含む）。今後の動き方にも差が出てくる可能性



引用：ドリームインキュベータ資料

青は採用数が減らず、赤は採用数が減る。

禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

6

就職をする上では、業界の選定がこの2,3年は肝となりそうです。景気がまた上向いてきたときに好きな業界に転職できるよう、まずは入れる業界にきちんと入って力をつける戦略が今後求められるでしょう。インフラの強さが今回は露呈した形になりましたね。逆に不動産は当面は冬の時代が続くそうです。不動産は7年サイクルとか色々言われていて、その度に物件の価格が高騰・暴落して数多くの不動産会社が潰れたりしているの、今回は下げのサイクルに入ったとみて良いでしょう。人材・広告系も企業が動かない以上、厳しい時が続くそうです。なお、普段そこまで人が採用できていない生命保険については最近では人員の大幅な増強を行なっているようです。明治安田生命がリードしていますね。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

デジタルシフトがもたらした変化

- 製造業：感染者によって工場を休止しないといけなかったことから、自動化を進める（加賀東芝エレクトロニクス）
- 介護・ケア：在宅介護がさらに進んだ結果、人手不足に拍車。ロボットの導入が進む
- 人事機能：リモートワークで評価の仕方が困難になった結果、成果主義と業務の細分化が進展。**細分化された業務は外注**に回され、人件費がより合理化。重要な人物以外は社外でまかなう方針に。
- 営業：医薬品営業（MR）などを中心に、対面式営業の重要性が薄れる。
- 決済：現金から、キャッシュレスへ移行。

本来言われていた「AIやロボットにより、30年で、仕事がなくなる」という話が10年分進んでしまった

禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

7

このスライドからわかることは、仕事を奪われる側にいるよりも、仕事を奪う側に回った方が仕事があるということです。結果、ITの会社、ロボットの会社などがやはりお勧めになってきます。MRの不要論は以前からありましたが、今回でそのことが露呈した形となりました。今後業界がどうなっていくのやら。なんにせよ、エムスリーは当面安泰ですね。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

もともとと言われていたこと

自動化の可能性が高い職業	無くなる確率	自動化の可能性が低い職業	無くなる確率
保険の査定担当者	99%	レクリエーションセラピスト	0.28%
クレジットアナリスト	98%	整備、修理工の第一線監督者	0.30%
不動産ブローカー	97%	医療ソーシャルワーカー	0.35%
レストランの料理人	96%	振付師	0.40%
造形、中子、鑄造機の	95%	セールスエンジニア	0.41%
作業員（金属や樹脂）	95%	小学校教師	0.44%
バラリーガル	94%	生地や洋服のボタンナー	0.49%
弁護士助手	94%	人事マネジャー	0.55%
会計士、監査人	94%	スポーツトレーナー	0.71%
小売店の店員	92%	経営者	1.50%
工場作業員	92%	写真家	2.10%
臨床検査技師	90%	調達責任者	3.00%
タクシー運転手	89%	弁護士	3.50%
お抱え運転手	89%	コンピューター情報システム責任者	3.50%
テクニカルライター	89%	数学者	4.70%

禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

8

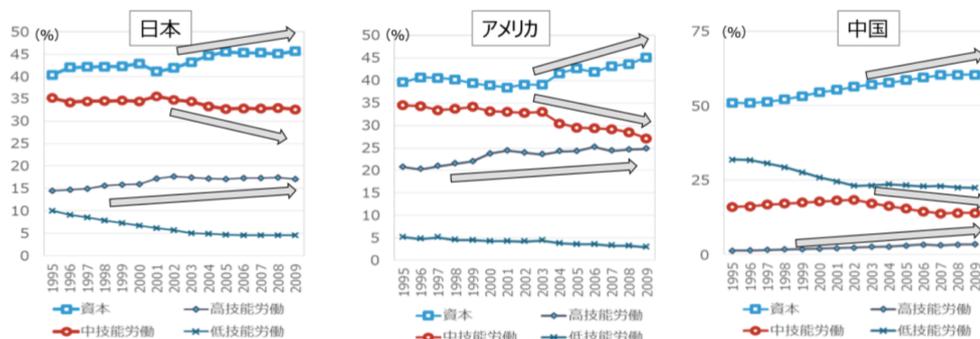
保険の査定担当者やクレジットアナリストなどの仕事は速攻消え去ると僕は思っています。機械で十分判断できる領域ですから。最近では会計士や監査の仕事もITのソフトのおかげで不要になってきていますよね。顧問料は相変わらず取れるものの、その人の専門知識やヒューマンスキル、そして売り込み方次第で雲泥の差がついてしまいます。そのあたりをどんどん能力開発していくと良いでしょうね。逆に、小学校の教師やカウンセラー、セラピストなどの仕事は残るようです。それがわかってきたから私はこの仕事を作ったわけですが。

経済産業省も警笛を鳴らしていた

2-5.機械に代替される中技能労働者

- 情報技術の進化・深化等による生産要素需要の変化を背景に^{※1}、高技能労働分配率の上昇が進み、2000年以降では中技能労働分配率の減少と資本分配率の上昇が同時に進展。
- 情報技術の進化などの変化は、既に、機械など資本ストックへの需要を高め、その反面、中技能労働者に対する需要を低下させている。

製造業起因GVC所得の生産要素別分配率



※1 Autorらは、IT資本が非定型で複雑な問題解決業務と補完的であり、ルーティン的な業務と代替的であるということを描いている。David H. Autor, Frank Levy, and Richard J. Murnane, 2003, "The Skill Content Of Recent Technological Change: An Empirical Exploration," The Quarterly Journal of Economics, 118, 4 (November), 1279-1333

(出所) World Input-Output Database 「World Input-Output Tables, November 2013」及び「Socio Economic Accounts, July 2014」

13

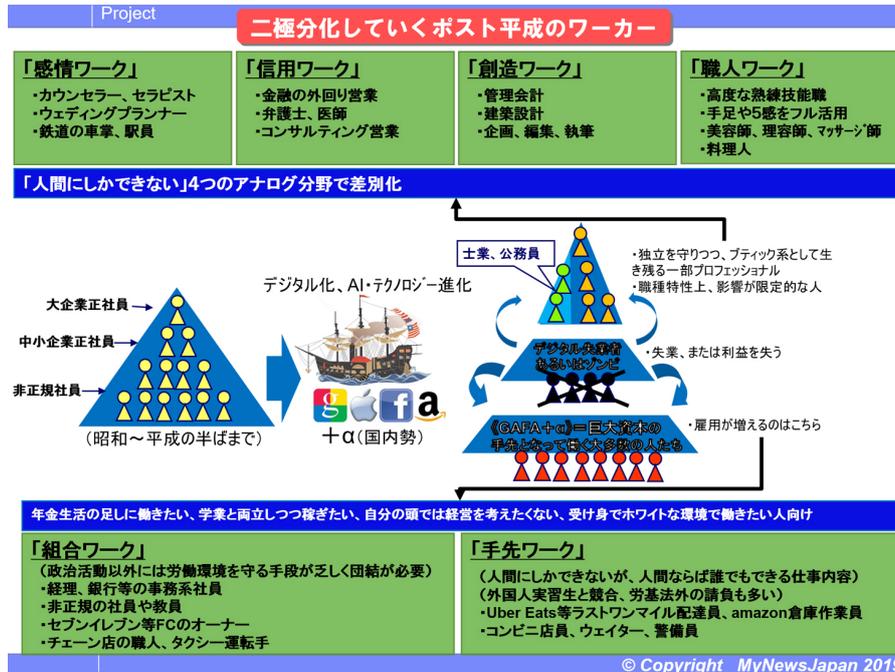
禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

9

中技能労働者とは、高卒で工場で働いたり、事務に従事している人のことを指します。今後、こういった仕事がどんどん機械やロボット、AIに代替されていくでしょう。それは経済産業省も推進していくことを容認しているようです。結果、資本の部分が向上していきます。資本 = ロボット・AIだからです。結果的に、企画や創造的な業務を行える高技能労働者はどんどん重要性を増していくでしょう。しかしまあ、このグラフを見ていると、日本はアメリカや中国に5~10年は遅れていますね。やはりガラパゴス島国であることを認識せざるを得ないグラフです。まあ、逆に言えば中国やアメリカに行ってノウハウを学んでそれを日本に持ち込めばウケる未来を作れるということなのですから。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

プラットフォームがこれに拍車をかける



禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

10

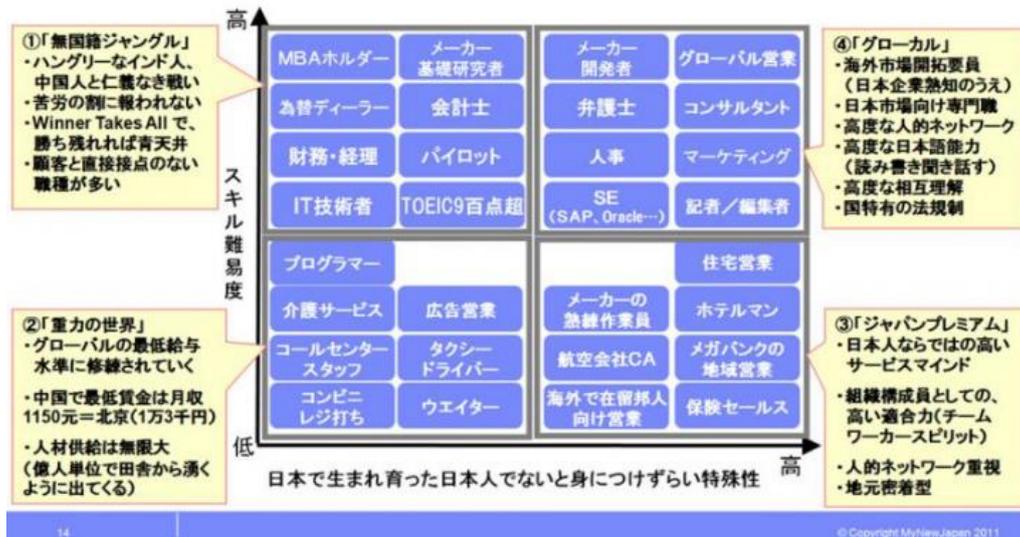
先ほどの中技能労働者の喪失に拍車をかけるのが、プラットフォームによる二極化です。個人的に、これがいちばん恐ろしいと思っています。プラットフォームによって社会が二極化され、人間にしかできない高付加価値なものやブランド価値のある業務はアナログ分野で差別化できるけれども、そうでない人は手先ワークや組合ワークで守られるしかない時代がやってきます。どちらに入るかで人生が大きく変わってしまいう時代です。会社はもうお子さんのことは守ってくれませんから、どんどん自発的にキャリアを積んでいくことが大事です。まあ弱肉強食ということですね。強者にとってはいきやすい時代ですけどね。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

コロナの影響でジャパンプレミアムが採用減。上ゾーンに避難せよ

日本人の強みを活かした職種/スキルとは

- ・グローバル化が進むと優位性が高まるスキルとは何か、を常に考えよ
- ・「グローバル化」と「巨大な日本市場」を意識したキャリア形成を



禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

11

先ほどのものを別の観点からみたグラフです。日本人による特殊性によって守られている仕事がある数ありますから、そこに従事した方が良いという内容です。ただ、今回のコロナ騒動でジャパンプレミアムの仕事が激減しましたから、多くの就活生が路頭に迷っています。普段からグローバルゾーンに行けるよう、大学生も勉強をしておくべきですね。

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

今後台頭する業界～エリート以外はここがオススメ～

1. 公衆衛生に関する産業：
公衆衛生の企画づくり、公衆衛生を盛り込んだホテルや小売店
2. 遠隔サービスを可能にする産業：
遠隔医療、リモートワーク推進、VR
3. プラットフォーマーから身を守るための施策提案：
オンラインでのブランディング、デザイン
4. 特化型プラットフォーム：
ZOZOなどの社員になる
5. ロボットを活用する産業：
医療機器、介護機器、ロボティクス、工場自動化
6. デジタル化の波に乗る産業：
キャッシュレス、RPA、SIer、それらを支えるセキュリティ。仕事を奪われる側から奪う側に回った方が無難。
7. デジタル化の恩恵を受ける産業：
物流ニーズの上昇。

以上の傾向を踏まえ、今後就いたほうが良いと私が思う仕事について記載しました。文系はプロフェッショナルにならないと高待遇を享受できない時代です。そして彼らをそのように追い込んでいくのが理系でAIやプログラミングを学んだ人たちであることは言うまでもありません。理系の人間をはじめとしたAI・ロボットの提供会社、そしてプラットフォームが文系の仕事を根こそぎ奪っていきます。今後、仕事につくなら、プロになるか、仕事を奪いに行くかのどちらかを選択した方が賢明だと言えるでしょう。

終わりに

ホワイトアカデミーPTA オンラインサロン

今後の動向まとめ

デジタル社会において、高い報酬が得られる職業は、
「数より質」「低単価より高単価」「個人より法人」
になっていく。

つまり、「あなたという人間を使うのだから、高額を払っても仕方が
ない」と思われるスキル・能力をつけるか、

「高額を払っても良い」「高額取引が日常風景」と思われるブランド
/法人取引で守られる場所に移動することである。

新卒は後者に該当する故、ニッチトップの会社か大手企業グループ、
ないしは今後台頭する業界に入らないと長期的なキャリアを築くのが
不可能な時代になりつつある。

なお、この時代においてはむしろ発展途上国でビジネスを立ち上げた
方が成功するチャンスは多いかもしれない。

禁複写・禁転載 All Rights Reserved, Copyright @ Avalon Consulting Inc.

13

今回のまとめです。個人的には、プロフェッショナリズムを持っていなくて、なおかつテクノロジーの開
発にも従事できない人は、今後発展途上国に行ってビジネスを起こした方がよっぽど儲かるのでは
ないかと思っています。ですので、もしお子さんがそういった学部や大学に通っているのであれば、東
南アジアに行かせてビジネスを現地で立ち上げさせてみると良いのではないのでしょうか。たくさんビジ
ネスチャンスが転がっていると思いますよ。

では、今回は以上です。また来月、お会いしましょう。

竹内健登

終わりに

White Academy PTA実践ニュースレター

発行者 : Avalon Consulting株式会社

住所 : 東京都新宿区西新宿3-7-21陽輪台西新宿9階

電話 : 03-5326-3606

HP : <https://avalon-consulting.jp>